

平成27年11月24日（火）

第11回定例教育委員会会議録

我孫子市教育委員会

1. 招集日時 平成27年11月24日(火)午後2時
2. 招集場所 教育委員会 大会議室
3. 出席委員 教育長 倉部 俊治 委員 北嶋扶美子
委員 豊島 秀範 委員 長谷川浩子
委員 足立 俊弘
4. 欠席委員 な し
5. 出席事務局職員
教育総務部長 湯下廣一
生涯学習部長 小林信治
教育総務部次長兼総務課長 小島茂明
教育総務部参事兼学校教育課長 丸 智彦
文化・スポーツ課長兼白樺文学館長兼杉村楚人冠記念館長 西沢隆治
指導課長 榊原憲樹 鳥の博物館長 斉藤安行
図書館長 日暮延浩 教育研究所長 水戸勝英
生涯学習課主幹兼公民館長 少年センター長 大島慎一
今井政良 文化・スポーツ課主幹 小林由紀夫
教育総務課長補佐 森田康宏
6. 欠席事務局職員 生涯学習部次長兼生涯学習センター長兼生涯学習課長 増田建男

午後 2 時 0 0 分開会

○倉部教育長　ただいまから平成 2 7 年第 1 1 回定例教育委員会を開会いたします。

これより会議を始めますが、教育委員並びに事務局職員に申し上げます。我孫子市教育委員会会議規則第 1 8 条の規定により、会議で発言する場合は挙手をし、私が指名してから発言をお願いします。また、会議を円滑に進めるため、発言は一問一答をお願いします。

会議録署名委員指名

○倉部教育長　日程第 1、我孫子市教育委員会会議規則第 3 1 条の規定により会議録署名委員を指名します。足立委員をお願いします。

諸　報　告

○倉部教育長　日程第 2、諸報告を議題とします。

事前に配付された事務報告、事務進行予定資料等に補足する説明や追加する事項はありますか。

○森田総務課長補佐　本日、お手元に我孫子市教育振興基本計画の現在までの案ということで資料を配らせていただきましたけれども、こちらについて少し補足とございますか、現状を私のほうから御説明いたします。

教育振興基本計画のこれまでの簡単な経過ですが、たびたび事務報告等でも御報告させていただいておりますが、7 月 3 1 日に教育委員会事務局職員及び子ども部の職員で構成します「我孫子市教育振興基本計画策定委員会」というものを設置しまして、これまで計 4 回の策定委員会を開催いたしまして、今お手元にお配りしているような内容のところまで来ました。

本日、配ったものにつきましては、完成度としましては 8 0 % から 9 0 % 程

度ぐらいのものとなりますので、空欄の部分ですとか、まだ調整が必要な部分もありますが、このあたりにつきましては今後詰めていくような形となります。

次に教育振興基本計画の構成ですが、表紙をめくっていただきまして、目次のページをごらんいただければと思うのですが、まず第1章で「我孫子市教育振興基本計画の基本的な考え方」といたしまして、計画策定の背景と目的、位置づけ、そして我孫子市教育大綱を掲載しております。

次に第2章で「我孫子市教育振興基本計画の策定」といたしまして、最初に市の教育を取り巻く状況を、学校教育の分野、生涯学習の分野、それぞれで記載をいたしまして、計画の基本方針、計画の施策体系図、計画の基本目標、重点施策等、計画の本編にわたる部分を記載しております。

最後に「資料編」ということで、この計画の施策と事務事業とのつながりを示した一覧表なども記載しております。

次に、計画の本編の内容について主だったところを御説明いたします。まず2ページ「計画の位置づけ」ですが、教育振興基本計画につきましては、総合教育会議において策定した教育大綱をもとに策定をしております。他の計画や関係する法令等との関係を示したのが、こちらの2ページにあるような図となっております。

次に「計画の期間」ですが、その隣の3ページです。計画の期間につきましては、いろいろな御意見はありましたが、一応4年間ということでやらせていただきました。教育大綱と同じく4年間とすることで、3ページのこちらの図にありますとおり、教育大綱とこちらの計画の開始年度が1年ずつずれておりますので、仮に教育大綱の内容が変わった場合でも、それに合わせて教育振興基本計画のほうも策定することができるということで、教育大綱と同じ4年間を計画の期間とさせていただきました。

次に「計画の体系」について説明いたします。14ページからです。

「施策体系図」ということで掲載させていただきました。教育振興基本計画は、先ほど申しましたとおり、教育大綱をもとに策定しておりますので、教育大綱と同様の構成とさせていただいております。

14ページ、15ページ部分が学校教育の部分、めくっていただいて次の16ページ、17ページの部分が生涯学習の部分ということで、それぞれの分野ごとに教育大綱と同じ基本目標と重点施策となっています。重点施策の下に個別の施策がぶら下がっておりますけれども、こちらについては教育委員会のほうで毎年定めております教育施策から主に引用させていただいております。

次に18ページから「計画の本編」ということで、それぞれの個別の施策について、「現状と課題」と「今後の方向性」というところで記載をしております。ここではそれぞれの個別の施策については、説明は省かせていただきますけれども、1点だけ補足というか説明をさせていただきます。こちらは先ほど我孫子市教育施策から個別の施策を持ってきているということで御説明しましたけれども、39ページの「子ども部との連携強化」というところがございまして、こちらについては子ども部の施策ということで市長部局の施策となりますが、39ページの2つと次のページの1つということで3つの施策を掲載しております。今回この計画を策定するに当たっては、子ども部との連携についても十分に意識しなければならないということで、こちらの計画については教育委員会の計画ですけれども、あえて市長部局の子ども部の施策をここに3つ盛り込ませていただきました。

次に「計画の進行管理」です。64ページから行政評価の事務事業と施策等の関係の一覧表を掲載させていただきましたが、我孫子市教育振興基本計画の個々の施策の下に関連する事務事業をそれぞれつなげることで、こちらの表の事務事業については行政評価制度で毎年数値目標等を定めて評価しておりますので、この事務事業の行政評価を行うことで、それにつながる計画の施策のほ

うの進行管理も同時に行っていくことになっております。

最初に80%から90%の完成度ということで御説明しましたがけれども、課題として残っている部分が多い点では2点ございまして、1点目が市の「第3次総合計画との整合性」という部分で、まだ課題が幾つか残っております、実は市の総合計画は来年度から新たなものに差しかわるのですがけれども、その最新のもので、先々週、全庁的に示されたばかりで、その内容との整合性が若干今の計画の中で図られていない部分がありまして、今後調整を図っていかなくてはならないというのがまず1点と、もう1点が生涯学習の部分で、生涯学習の施設を活用した魅力発信ですとか情報発信の部分が少し弱いというか、足りないというところで、ページで言いますと、前のほうの11ページですが、空欄になっておりますが、施設を利用した情報発信ですとか、魅力発信の部分をごこの辺に盛り込んでいければというところで生涯学習部を中心に少しここは検討中というところで、この2点が大きな課題となっております。

最後に今後のスケジュールですが、こちらの計画については今年度中に策定ということで、今のところの予定では来月上旬に5回目の策定委員会を開催しまして、そこで最終的な詰めを行って、最終案というところで、その後12月25日から翌年の1月22日までの間でパブリックコメントを実施する予定です。年が明けまして1月になりましたら、1月の定例教育委員会と総合教育会議が同じ日でございますので、1月22日までがパブリックコメントの期間となっておりますので、パブリックコメントの結果等を踏まえて、1月の定例教育委員会及び総合教育会議の場でまた報告等を入れさせていただきます。

その後、議員の勉強会での説明ですとか、あるいは2月12日の庁議を経まして2月の定例教育委員会で正式な議決をいただきまして、3月議会の教育福祉常任委員会で報告ということをご今後の予定として考えております。

以上となります。

○倉部教育長 ありがとうございます。

それでは、ただいま説明のありました教育振興基本計画について何か御質問はありますでしょうか。

ただいまの説明のように、これは最終形ではまだないというところで、これからつけ加える部分があるのですけれども、このような形で時々皆さんの御意見を聞きたいということで、今回議題にさせていただきました。いかがでしょうか。

きょう見てすぐということで、これからの定例教育委員会とか、先ほどのスケジュールの中でもありましたように、総合教育会議の場でも当然のことながら出てきます。パブリックコメントについては、生涯学習推進計画と同じタイミングで議会への説明とかも両輪で進めていくものですので、単独でやるのではなく両方あわせてそれぞれ進めていくというスケジュールを立てておりますので御了解いただければと思います。

特にこちらについてよろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○倉部教育長 それでは、教育振興基本計画についての報告は終わらせていただきます。

ほかに補足説明や追加する事項はありますか。

○西沢文化・スポーツ課長 文化・スポーツ課のほうから、手賀沼エコマラソンとめるへん文庫について2点御報告をさせていただきます。

まず、本日お配りしてありますA4の横の手賀沼エコマラソン受付集計表をごらんください。

10月25日に手賀沼エコマラソンが実施されました。5月10日に市民枠ということで2,000名、6月1日は一般枠ということで6,000名、合わせて8,000名の予定でスタートしております。5月10日の市民枠の2,

000名につきましては約1時間弱で締め切り、6月1日の一般枠6,000名に関しましては2時間弱で締め切りという形で、すごく人気がある大会ということで今やらせていただいております。

ここに書いてありますエントリー数、9,367名ということでエントリーをさせていただきました。実際の出走者数は7,997名ということですので、予定の8,000名を若干下回るような状況で大会は運営できました。

当日、実はほかのマラソン、特に大阪マラソンと重なってしまいまして、そちらのほうに行かれた方も個人的には聞いておりますので、そういう意味で例年は8,000名を少し超えるぐらいなのですけれども、今回は8,000名を割ったのは、そういう大きな大会との関連性があるのかなという気がしております。

当日は晴れでしたが風がすごく強く、気温24度という割には湿度も少し低目で風が強くて、後半、道の駅からふるさと公園のゴールまでの緑道、ちょうど風に向かっていくような状況で、選手の皆さんは大分苦勞をなさってスピードも大分ダウンしたというような状況がありました。そのせいか知りませんが、救急車が1回も出動しなくて搬送なしということで、大会を運営する私どもとしては一番うれしいことなのですが、選手の方には厳しかった分、事故、病気がないような状況。途中で足が少しつつとか、そういう軽微なものはたくさんいらっしまったのですが、救急車を使う方はいらっしやらなかったということとはとてもよかったというふうには感じております。

約8,000名弱の方が走っていただきまして、書いてありますとおり、完走率が97.96%で7,834名の方、ほとんどの方が完走していただきまして、皆さん口々に帰りの1キロがとてもつらかった。でも手賀沼は景色がいいので、また来年も来ますという感想もいっぱいいただきました。

私どもは昨年度から我孫子の駅と会場を、朝と大会が終わった後にシャトル

バスを運行させて、去年は試験的にやって人気がよかったものですから、ことは朝は4便、帰りは7便で御利用の方がいらっしゃって、どちらも約160名弱の方がシャトルバスを御利用いただいた。というのは我孫子駅を御利用していただいて会場にいらっしゃった、会場からまた我孫子駅まで帰っていく方で、終わった後に軽く親睦会をやりたいという方がたくさんいらっしゃって、商店をぜひ開けてくれるように来年はお願いしますというような御要望もありましたので、これにつきましては商工会のほうに早速お願いをしております。手賀沼エコマラソンにつきましては、このような状況になっております。

続きましてめるへん文庫ですが、ここでめるへん文庫の応募の締め切りをさせていただきます。全体の応募で145作品、去年が173作品ですので、去年よりは若干少ないという状況で作品の応募がありました。今現在、コピーをとりまして、審査員の方に今週中にはお送りをして、これから審査のほうに入っていただくような状況になっております。

お寄せいただいた作品なのですが、去年は小学生の方が109編という数字が、ことは31編ということで大変激減しております。中学生のほう去年は61編という数字だったのですが、ことは109編。去年の小学生の数字が、ことしの中学生の数字にそのまま入れ変わっております。去年の中学の61編、ことしの小学生の31編、このあたりの数字の差が全体の数字にあらわれているような状況が見られます。去年の小学校の6年生の方が中学に上がった段階で、また応募していただいたのかなというような、細かいところまで分析はしていませんけれども、この全体の中の数字だけ見ますと、そのような感じが見受けられます。これから審査のほうをしていきまして、年明けには成績のほうも発表していきたいと思っております。

昨年受賞した方々のめるへん文庫12集は、9月の中旬に刊行させていただきます。

私のほうからは以上です。

○倉部教育長 高校生も3編から5編になったということですよね。

○西沢文化・スポーツ課長 はい。そうです。

○倉部教育長 ありがとうございます。

めるへん文庫について、何か御質問はありますでしょうか。

○豊島委員 今年度、145編、小学校31編、109編は中学校、残りは高校生ということですか。

○西沢文化・スポーツ課長 高校生が昨年は3編、ことしは5編という形で、数字的には若干ふえているような状況になっております。

○倉部教育長 御質問はよろしいですか。

審査にかかわりはありませんけれども、私も全編読んでいます。とてもレベルは高いです。おもしろい作品が多いです。最初の年は受賞者の作品だけだったのですけれども、昨年から全作品を読ませていただいて、とてもおもしろいなど。小中高とレベルが上がるにつれて、その作品の質もいいかなと思っていますので、またことしも期待したいと思っています。

エコマラソンとめるへん文庫、両方の御質問についてはよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 ありがとうございます。

それでは補足説明、追加する事項がほかにないようですので、これより事務報告に対する質疑の時間といたします。質疑があればこれを許します。

○長谷川委員 6ページの指導課の2番で「英語・英語活動主任研修会」これなのですけれども、参加者に古河市の教育委員会の指導主事の方がいらっしやっているようなのですが、こちらの方は見学というか、授業参観にいらっしやったという形ですか。

○榊原指導課長 うちの取り組みが先進的だということで勉強に来ていただき

ました。

○長谷川委員 何かこの方から御意見ですとか、御感想とかはありますか。

○榊原指導課長 こちらの市教委でもカリキュラムを開発しているということで、我々のつくりましたカリキュラムをお渡しして参考にさせていただくという形で今進んでおります。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○北嶋委員 今のページの1番目ですけれども、「いじめ防止対策委員会」ということで、ここの内容の中に携帯、スマホの調査云々が書いてありますけれども、その件についてどのような報告をなされたかお聞きしていいでしょうか。

○大島少年センター長 今回初めて小中学生の携帯、スマートフォンの所持率を調べまして報告したのですが、数字的なところは今手元にないのですが、全体的な傾向としては、小学生はまだスマートフォンというよりは携帯電話、特に子供向けの携帯を持たせている家庭が多いと。中学生は完全にスマートフォンの所持率が多くなっております。

以上です。

○北嶋委員 ここは委員会の内容なので、少しずれてしまうかもしれませんがけれども、そういう状況を各学校は御存じになっていらっしゃるんですよね。

まず1つは、もちろん学校に持ち込みは原則禁止ですよ。事情があれば預かるということをお聞きしていただきました。そのスマホの使い方等についてとても難しく、教えれば使いなさいということにとられてしまうのか、持っているけれども全く触れないで道徳教育云々に行くのか、その辺の微妙なやりとりがあると思いますけれども、各学校では御苦労なさっていると思いますけれども、先生方は子供のスマホの携帯を前提として御指導になっていらっしゃるのでしょうか。

○大島少年センター長 これはもう各小中学校とも、それは前提にして取り組

んでおります。特に情報モラル教育は授業としても行っておりますし、また講演会、これは保護者対象であったり、子供対象であったりいろいろですが、講演会を開いて専門の方に来ていただいて、正しい使い方等について勉強する機会を持っております。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 同じ6ページですけれども、5番目のところです。学力向上推進委員連絡協議会ですけれども、内容のところに「学力向上について、今年度顕著に伸びた学校の取組紹介」とか、校長先生より課題解決に向けた取り組みとかというのがあるのですけれども、今年度の学力検査の学習状況というか、検査結果について、我孫子の場合に特別に何か課題というか、そういうものというのはあるというふうに考えているのでしょうか。

○榊原指導課長 お答えします。日々の学校の教職員の努力によって、一步一步進んでいる状況でございますけれども、課題としましては、記述式の課題に対しての児童生徒の回答率が低いというところが上げられておりますので、こちらとしまして、学校長、学力向上推進担当者については、具体的に授業の中で記述を取り入れた学習様式を取り入れるようにということで資料を提示して指導に当たっている状況でございます。

○豊島委員 確かに難しいですよね。記述式は嫌ですよね。同じところの2番目の○のところに「学力向上について、今年度顕著に伸びた学校の取組紹介」とあるのですけれども、顕著に伸びた学校というのは、記述式とか、そういうところに取り組んでいたのでしょうか。

○榊原指導課長 特に中学校におきましては、調査は中3ですが、中1の段階から朝学習を使いまして、毎朝10分間グループの形態を用いて、曜日ごとに記述式の各教科の課題を出して、それに取り組ませるというようなことを積み重ねてまいったそうです。

○豊島委員 すばらしいですね。そういうふうな取り組みというのは、中学校6校全部でやっていたというわけではないということですか。

○榊原指導課長 今申し上げました取り組みについては、毎日やっていたのはその学校のみということでございます。

○豊島委員 ありがとうございます。ぜひ続けていってもらいたいと思います。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○北嶋委員 今回の関連で、私たちが前回いただきました報告書がありますよね。多分こういうことを資料になさって、5番はそうなのだと思いますけれども、この報告書は各学校にどのように配布されていらっしゃるでしょうか。

○榊原指導課長 まず第一報としまして、この10月29日の学力向上の担当者会議で提示をいたしました。その後、11月の初めに行われました校長会で校長先生方に提示しまして、取り組み内容について重点を御説明いたしました。

○北嶋委員 これはとても丁寧に書かれていて、各学校がこれを資料として、どういうふうに改善すればいいかと詳しく書かれていますよね。ということは各学校でこれは上手にお使いになって、その学校に合った指導を皆さんで協議してくださいとふうに提示したということと理解していいですか。

○榊原指導課長 そのとおりでございます。少なくとも12月中には各学校のホームページに、各学校ごとの取り組みを載せていただくということで今依頼をかけております。

○北嶋委員 今回のホームページというのは、その学校の傾向をあらわして、それに対してうちの学校はこういう対処をして子供たちの学力向上に努めますよということを公開してくださるということですね。

○榊原指導課長 そのとおりでございます。

○北嶋委員 ありがとうございます。

○倉部教育長 よろしいですか。

ほかに。

○豊島委員 今との関連で、もう1つだけ教えてください。私も高校に勤めていたときに朝の学習というのをやっていたのですけれども、これは教員にとっては結構大変なのです。それを中学校とかでやる場合には、原則これは担任が授業の始まる前に、あるいは宿題を出すなり何なりして、担任がやっているということになるのでしょうか。

○榊原指導課長 その該当校につきましては、4教科を主に行っておりましたので、各教科担当の先生が日が変わりで課題の準備をして、子供たちに取り組みせるというような形でやっております。

○豊島委員 ありがとうございます。細かいことはやめますけれども、誰かが言っているか、生徒が責任を持ってやっているか、さまざまでしょうけれども——わかりました。その記述させたものというのは、その後はどうしているのですか。その評価とか、何とか。

○榊原指導課長 担任が集めまして、教科担当者に渡して添削をする。そして赤を入れて子供たちに返却するというような一連の流れになっております。

○豊島委員 ありがとうございます。また後で「繋」のところで関連して、もう1回伺います。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○北嶋委員 研究所にお願いします。11ページです。3番のところの毎回御報告いただいていることですが、この中で内容のところに「中学校区ごとの情報交換を行った。」ということがありますね。小中一貫にこれからなりまして、困り感のある子供たちも9年間を通して救っていこうということで、私も前からお聞きしていることなのですが、小学校での子供たちの困り感とか、それぞれの子供の課題が中学校にスムーズに引き継がれるために、こういう協議はとても重要だと思うのですが、そういう引き継ぐための具体的な様式とい

うか、方法というか、そういうのはあるのでしょうか。

○水戸教育研究所長 まず、長欠につきましては、毎月1回、学校から研究所のほうに欠席の状況を上げてもらっています。これは同一の様式で小中学校に調査をかけておりますので、長欠の状況については、中学校区内での引き継ぎの資料というよりは、市内全小中学校共通の様式があるという状況です。また、その他学習状況ですとか、さまざまな引き継ぎも小中の間で行われますけれども、中学校がこの様式でお願いしますという形で依頼しているケースのほうが圧倒的に多いのだらうとは聞いていますけれども、そのほかについてはわかりませんが、この欠席の状況については、小学校から中学校への引き継ぎのときの様式というのは特段定めてはいませんが、共通の様式はありますという状況でございます。

○北嶋委員 長欠ということですから、多分小学校の先生も、その子供さんや御家族との情報も少ないわけですよ。それをそのまま中学に行くと、その少ない情報の中からまた中学の先生が拾わなければならないというのは、さぞかし大変だろうなお察しします。その子たちをどうして中学校在籍に戻していくのかとか、いろいろな方法があったりするので、できたら小学校で統一された何かがあって、どの先生が御記入なさっても欲しい情報が書かれるようなもので、読む方がそれを見ればわかる。

私は第三者だから勝手なこと言っているかもしれませんが、そんなのがあったら小学校の先生も中学校に安心して送れるし、初めて見た中学校の先生も、この子の個性がわかりやすい、情報がうまく伝達できたらいいなと思ってお聞きしたのですが、なかなかそういうのは難しいことなのですね。

○水戸教育研究所長 ただいま委員がおっしゃった内容からすると、恐らく研究所が集約しているものが、例えばいつ家庭訪問に行ってこんな状況だったとか、そういったことの記録が入っておりますので、それをもとに各中学校区で

引き継ぎをしてくださいというふうに研究所がお願いをするというのもありだ
と思います。それにつきましては、ぜひ今年度末、そのような方向で取り組ん
でいきたいというふうに思います。

○倉部教育長 今、水戸所長のほうから報告がありましたように、統一方式で
研究所のほうに各学校から毎月1回必ず報告がありますので、それをつなぐと
いう手が多分一番簡単で、改めて記載ということがないものですので、それ
の中には何月何日にどのような連絡をとって、それについてどういう回答が
あって、先生たちはどのような対応をとったかという細かな先生方の行動
日誌になっていますので、それを対応するように研究をしてまいりたいと思
います。

ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 8ページのところなのですけれども、【要請訪問等】というところ
です。これは20件ありまして、それぞれの学校が指導主事を仰いで一生懸命
勉強しよう、研究しようとしている様子がよくわかります。その中で、中学
校を見ているのですけれども、1番と14番のところに「我孫子中学校」があ
りますが、そのほかには特別、中学校独自というのはないように思うのですけ
れども、あるからどうだ、ないからどうだということではないのですけれども、
ほかの中学校からはそういう要請がないというのはどうなのでしょう。我孫
子中学校だけが一生懸命やっているわけではないのですよね。ここのところ少
し目立つのですけれども。

○榊原指導課長 まず市の指導課の職員が要請を受けて訪問したのが我孫子中
学校ということでしたが、中学校もそれぞれ研究を進めておりまして、例えば
県の事務所のほうの指導主事を呼ぶ、あと外部の方を呼ぶ等で、それぞれ各校
が研究課題を持って研究をしています。

○豊島委員 そうだと思います。その中で聞いたのは、教育指導案の検討とい

うのと理科の授業云々というのが我孫子中学校の場合はあるのですけれども、指導案は小学校でも中学校でもありますから、これは別に我孫子中学校は指導案とか、何とかを特別重視してやっているわけではないのですね。たまたまです。

○榊原指導課長 全ての学校で指導案の検討、そして当日、研究協議会という形が基本となっております。

○豊島委員 ありがとうございます。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 9ページのところをお願いします。指導課（少年センター）のほうなのですが、上から3番目のところに「県下一斉列車補導」というのが11月11日、12日にあります。総勢110名の方が参加されてやっていらっしゃるということで、これは大がかりなもので、補導とか、下の内容のところ遅刻の生徒への声かけとか、服装指導とか、怠学生徒への指導とかいろいろありますけれども、毎年この時期で、例年と比べて今回は内容のところに変化があったとか、注意しなければいけないとか、そういうことは何か聞いておりますでしょうか。

○大島少年センター長 まず時期については、毎年大体この時期に行っております。ことしの状況に関してですが、ほとんど指導、声かけをしても、特に問題行動があるということは、高校生が中心なのですけれども、おりませんでした。そこにあります声かけ人数は23人ですが、ほとんどが遅刻生徒、中にはちょうど高校の先生と一緒に周って来て自校の生徒に服装の指導をしたり、また都内に住む高校生が学校に行きたくないということで、わざわざ電車に乗って我孫子まで来ており、そこで声をかけられるというようなことがございました。

以上です。

○豊島委員 大変なことですよ。これは本当に大変な作業だと思うのですが、11月のこの時期にやるというのは、進路とか、そういうことに関連してのことなのではないでしょうか。あるいは年度の半分を過ぎたあたりで少したるみが出るとか、そういう時期的な問題なのではないでしょうか。この11月ごろというのは。

○大島少年センター長 これは県のほうで10月と11月、この2カ月間で各市で行いましょうという取り決めがあります。10月と11月にしているという理由は聞いてはいないのですけれども、毎年この時期になっております。

○豊島委員 時期としてはいいのではないかなと思います。進学とかいろいろなことで今悩んでいるときですから、特別問題がなければいいと思います。御質問いたしませんけれども、下の不審者のこととか、街頭指導も含めて地道な作業なのすけれども、こういう作業というのは大変なのだけれども重要だと思いますよね。これからもぜひ頑張って続けていきたいと思っておりますけれども。

以上です。

○倉部教育長 私のほうから、「きずな」が作成されて、少年指導員の声がかたしか載っていたと思いますので、それについて教育委員の皆さんにも後ほど配付していただければ、多分その実態がよりよくわかると思いますので、私のほうからお願いいたします。

ほかにいかがでしょうか。

○北嶋委員 18ページの公民館、「アビコなんでも学び隊」でいつもいろいろな講座をなさっていて、いいなと思っています。ここで我孫子高校の先生が子供たちと一緒にピザの作り方をやってくくださったということで、時々高校生と一緒にやっていますよね。こういうのは我孫子市が我孫子高校に話を持って行ってやりましょうということになっているのですか。

○今井公民館長 こちらの我孫子高校の家庭科の先生を指導員のほうで、済み

ません、ちょっとどなたかは記憶がないのですけれども、御紹介いただきまして、家庭科部というのですか、そういった料理をするサークルがありまして、その生徒さんも一緒にお手伝いということで、ことしは生徒さんが8名、アビスタの中にある調理室の調理台1つずつに対して最低1名がお手伝いで来ていただくということで、子供たちも年齢が近い関係もあるのかもしれませんが、非常に話がしやすいということで大変好評をいただいているので数年続いているところで、今後も協力をお願いしたいなと思っているところでございます。

○北嶋委員 いつも生徒さん、家庭科部と書いてくださっていたので、今回なかったから先生だけかなと。

それで小学校1年生から中学3年生まで、これは市内に広く募集をして、手を挙げてくださった方ですよね。小学校1年生でも中学3年生でも、高校生のお姉さんたちと一緒に楽しくできたということで、結構リピーターのお子さんたちが多いということではないですか。

○今井公民館長 調理室の中の人数が決まっておりますので、できれば新しい方というのを、まず第一に決めております。リピーターの方も、御兄弟で経験されたというのもあるので、そういった部分でのリピーターというのはおられる方はいらっしゃいますけれども、去年受けたからことしもというのには、私どものほうも遠慮させていただくという形が実際にはございます。募集は小学校1年から3年生ということで、15名ということで募集をかけておりました。実際に応募して参加されたお子さんたちは、小学生5年生まででしたか、そこまでの年齢のお子さんがほとんどだった。男の子も当然参加されて、その場でおいしくいただくという形までで完成形で終わっております。

○北嶋委員 とてもいい事業なので広くいろいろな方にやっていただきたい。どうしても情報を得る方は、同じような方が割と手を挙げることが多いので、公民館はその辺どういうふうにか、応募者の中から抽せんとか、受けてくだ

さる方を選んでいらっしゃるのか気になりましたので、確認しました。ありがとうございます。

○倉部教育長 よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 3ページに戻らせてください。学校教育課のほうです。戻ってしまつてごめんなさい。

学区外の就学件数の中の上のほうですけれども、5番目のところに「兄・姉が指定校以外に就学しているため」ということで、小学校の来年の1年生の5人が5件ということになりますか。これは通学区を変更したりするという以外とは違ってしまっているかなと思うのですけれども、1年生ということは、この子は6年間続くということになるのでしょうか。

○丸学校教育課長 今委員がおっしゃったとおりです。これは例えば今、我孫子の駅の前にあるマンションがございますよね。あそこは本当は根戸小学校です。根戸小学校なのですけれども、選択通学区域を認める関係で第四小学校にお兄さん、お姉さんが行つていらっしゃいます。そうすると1年生が根戸小学生に行つてしまうと緊急時の場合に大変だということで、それは学区外なのですけれども、第四小学校に入れる、兄弟は同じ学校に入れるというところになっています。

以上です。

○豊島委員 それ以外の1年生は学校が違つてしまうということですね。普通は根戸小学校なのですね。

○丸学校教育課長 そうです。

○豊島委員 だけど根戸小学校には、この5名は行かないのですよね。

○丸学校教育課長 行きません。

○豊島委員 その地域に1年生がいるとしたら根戸小学校に行くわけですよね。

○丸学校教育課長 行きます。

○倉部教育長 学区編成上の制約になりますので、原則としてはやはりそれに従ってもらうしかない。ただ、選択の中で、行ける範囲内が何人とかというふうに決められていますので、その中で了解した上で、その選択をしているというふうに聞いておりますので、それをまず前提として、兄弟がいたときにはあえてその兄弟を分けるという、いわゆるその理由が逆に言うと弱くなってしまうというところですね。

よろしいでしょうか。

○豊島委員 正しいと思います。それは区分けからすると問題ですけれども、かといって兄弟がいるのに別々のところに行ってしまうというのは少し問題ですから、むしろ同じマンションなら、マンション中にいる1年生が、それぞれ違う小学校に行ってしまうのだということを思ってしまうものですから伺いましたけれども、了解です。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○北嶋委員 20ページの文化・スポーツ課で、前回お聞きしましたけれども、歴史文化財担当の方が教職員研修で布佐地域フィールド学習をなさったということで、これは先生方のほうからやりたいという御希望があったと。とても私はいいことだなと思って、先生はお忙しい中でよく動いてくださったなと思っています。これに参加された先生方の感想なり、今後のことなり、わかったらお願いできますか。

○西沢文化・スポーツ課長 先生方からフィードバックがまだ来ていません。私どものほうから逆にお聞きするような形でやっていきたいというふうには思っています。

○倉部教育長 集計ができましたら、またそういうのもとれましたら教育委員会の委員さんにお問い合わせできますか。

○北嶋委員 今のことで、子供たちを育てるのも生涯学習であり、先生方を地

域で育てていただくようするのも生涯学習の役割だと思いますので、こういうふうに関係がクロスオーバーするのはとてもいいことだと思いますので、これからは何か機会があったら、生涯学習部のほうからこういうことをできますよというのを学校教育課でも指導課でも提供してくださると、案外こんな方法があったのだということで、地域学習とか、地域の人との触れ合いができるのかなと思いますので、その辺お願いいたします。

○西沢文化・スポーツ課長 私どものほうから、なるべくは子供さん方、先生方に働きかけをしていきたいと思っています。この間、先人たちの副読本につきましても指導課のほうでおつくりになっていますが、基本的に私どももお手伝いをしてバックアップもさせていただいておりますので、そのような形でも、これからどんどん進めていきたいというふうに思っています。

○倉部教育長 よろしいですか。

きょう学校訪問した第二小学校において、文化財の発掘物というのですか、子供たちの中で非常にいい資料をつくっていただいている。ああいうような交流がこれからは盛んになることを教育委員全員が多分望んでいると思いますので、ぜひそういうふうな取り組みをしていただければありがたいなと思います。よろしくお願いいたします。

ほかにいかがでしょうか

○長谷川委員 15ページの生涯学習課の2番、東葛飾地区社会教育委員連絡協議会の社会教育振興大会に行っていました。

質問ではなくて、これに参加した感想なのですが、社会教育委員さんとともに行ってきて、2つの市の実践発表が行われました。

まず世界組織であるスカウトについて、松戸市スカウト連絡協議会の方から誕生から現在の活動についてお話を伺いました。これは北嶋委員のほう詳しいので、こちらではあれなのですが。

実践事業の1つとして市内の小学生対象の野外イベントを開催して、これを松戸市の教育委員会が後援をしているというお話がありました。

もう1つ、柏市の家庭教育支援「みんなの子育て広場」というものの発表がありました。これは23年にスタートして、現在19校の市内の小学校で実践されているものだそうです。PTAですとか、保護者、ボランティアが中心になって、学校、地域、家庭が協力をして家庭教育支援、講演会、入学準備の講話ですとか、資料の配布を行っているそうです。これは児童向けではなくて保護者向けの情報収集、交換、悩みの解消、仲間づくりといったもので、我孫子にも小学1年生の保護者の方対象の「わくわくどきどき子育て」という家庭教育があるのですけれども、この柏市の学校を会場にしている「みんなの子育て広場」というのに少し興味を持ちました。

私たちがPTAの方々から課題ですとか、お悩みですとか、その解消策ですとか、そういうことを意見交換できる場を持つことができればなど。そういう機会がまた持てれば、柏市と同じ形でなくても、今後何かできていけるのではないかなというふうに感じてまいりました。

以上です。

○倉部教育長 報告と感想をありがとうございます。

今後の工夫の仕方でというところの御提案だと思しますので、それについては事務局のほうともあわせて検討してまいりたいと思っています。よろしくお願ひします。

ほかに事務報告についていかがでしょうか。

○豊島委員 21ページの鳥の博物館のところなのですけれども、「コウノトリの帽子をつくろう」とか「鳥博クイズ」とか、特に「鳥博クイズ」は参加者が両日で370名を超えている、380名ぐらいになるのですかね。「帽子をつくろう」もそうですけれども、いろいろ打って出ているという感じが強くし

ておりまして、結構いい行事を続けているのではないのでしょうかというふうに思っておりました。3と4の「帽子をつくろう」とか「鳥博クイズ」というのは、今までとは少し違う方向のように思うのですけれども、どうでしょうか。

○斉藤鳥の博物館長 少しこの書き方がわかりづらかったかもしれませんが、この3番と4番のイベントなのですけれども、これはジャパンバードフェスティバルの中で、お客さんに向けて特別に行った事業です。したがって、たくさんのお客さんが来ている中で展開したので、これだけたくさんの人たちに来ていただきました。

「コウノトリの帽子をつくろう」というのは、野田でちょうどコウノトリを放鳥したということもあって、その情報も付加しながらやったイベントです。

また「鳥博クイズ」というのは、博物館の展示を見てもらおうということで、見るとわかるような答えのクイズを幾つか出して、楽しんでもらおうというような形でやっていました。

以上です。

○豊島委員 ありがとうございます。

22ページのところの共催事業のジャパンバードフェスティバルで、入館者が両日で4,900名ということですから、かなりの人数が来てくださった。その中でのイベントということを知りました。このような形でこれからもどんどん意欲的にイベントの中で催し物を加えていくといいなというふうに思っておりまして、私もちらっと見たのですけれども、すごくにぎやかというふうに思っておりまして、中に入る時間がなくて申しわけなかったのですけれども、いいアイデアだなと思っております。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。——よろしいですか。

JBFについては、今回は天候もよくて、非常に人出もよく、また内容も充実したということで好評でした。来年も天気がよければいいなと心から願って

おります。

○豊島委員 もう1つだけ。図書館の25ページの6番の「施設見学」のところなのですけれども、「わだ幼稚園園児と引率者60人」という10月27日のほうなのですけれども、幼稚園の方にこういう形で来てもらうということは今までもあったのですか。

○日暮図書館長 わだ幼稚園とは、定期的に何回か来てもらってやっています。以上です。

○豊島委員 ありがとうございます。これはわだ幼稚園だけですか。

○日暮図書館長 今のところわだ幼稚園だけだと思います。保育園も以前にはありました。

○豊島委員 足立委員が行っていると言っていますけれども。

私が申し上げようとしたのは、こういうのはいいなと思いましたが。大変でしょうけれども、幼稚園の園児なんかも、まさにこういう施設に行って、おはなし会をしてもらうとかというのは、先々につながるし、いいなと思っておりました。ぜひわだ幼稚園以外にも広げていただけたらいいのではないのでしょうか。だめなのでしょうか。

○日暮図書館長 一番いいのは、アビスタのほうでおはなし会とか、いろいろな会をやっていますから、そちらのほうに参加してもらうのが一番いいのですけれども、なかなか全員が来てやるにはスペース上の問題もありますし、アビスタ本館ではスペースがそこまでとれません。布佐の分館についてはお話の部屋がありまして、そこでやることができるのですけれども、今後については考えていきたいと思えます。

○倉部教育長 よろしいでしょうか。

ほかの幼稚園、保育園についても収容可能で現実的にやっているという状況の上ですので、これをぜひ進めていっていただきたいなと思えますので、よろ

しく願います。

ほかに。

○北嶋委員 24ページにそよかぜ号の話が出ていますけれども、今、我孫子市では、そよかぜ号1台で移動図書館をなさっているのですよね。そよかぜ号は余り若くない、結構なお年になっていると思うのですが、車の安全とか大丈夫なのですか。

○日暮図書館長 もう老朽化しているので、本当は買いかえたいのですけれども、昨年も政策の予算で要求したのですけれども認められませんでした。今年度も、今週ヒアリングがあるのですけれども、同じように要求はしていきたいと考えております。今のところ特に大きな故障はないので、とりあえずは安全に運行できているのかなという感じはします。

○北嶋委員 本の重さは相当なものですよね。あのバスもうちの近くも来てくださいますけれども、もしも何かあったらお休みになってしまうわけなので、市のいろいろあるでしょうけれども、毎年出してもだめ、だめというのを私は見てきているので強いてここで発言させていただいたのですが、できれば欲しいです。希望です。

以上です。

○倉部教育長 ありがとうございます。教育委員会内の予算協議の中でも強く押すという形で臨んでくれているのですが、耐用年数が通常車は10年のところを14～15年だったでしょうか、それをクリアしています。ただ、走行距離がやはり少ないので、ほかの車に比べてそういうものが少し弱いかなと思いますけれども、絶対的に必要な車ですので、支障のないように委員会としても、担当としても強く要求をしてまいりたいと思っていますので、総合教育会議の場でぜひとも協力をお願いしたいと思います。よろしく願います。

事務報告はほかによろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 ないものと認めます。事務報告に対する質疑を打ち切ります。

次に、事務進行予定について質疑があればこれを許します。

質問の前に、きょう配付された資料の中で「第35回郷土芸能祭」のパンフレットがありますので、担当課長より簡単に説明をお願いできますか。

○西沢文化・スポーツ課長 第35回郷土芸能祭が、ことしも開催されます。市制10周年を記念しましてスタートした郷土芸能祭ですが、ちょうど区切りの年なので、区切りの数字という形になっております。

本来ですと12月の第一日曜日ということで、ずっと同じ曜日でやらせていただいていたのですが、ことしは公民館のホールの空調工事の関係もありまして、空調の工事が終わって最初の、こけら落としとまでは言いませんが、新たなホールになってからの郷土芸能祭ということで、ちゃんとした空調の中でできるかなと思っています。

基本的に言えば、古戸のはやし連中の方、布佐のひょっこ睦、あびこふるさと会の方を中心に、各会のほうで第四小学校、湖北小学校、布佐小学校、布佐中学校に教えに行っているということで、そこの子供たち。ことしはゲストとして太鼓をやっているつくし野の麒麟太鼓の方を招いて、こういう形でやっていきたいと思っておりますので、お時間がありましたら、ぜひ見ていただければと思います。よろしく願いいたします。

○倉部教育長 ありがとうございました。

それでは事務進行予定について御質問はありますか。

○北嶋委員 公民館ですが、お伺いします。9ページの4番の長寿大学の学習なのですけれども、その中に交流学习ということで「戦争体験と働くということについて」、湖北小学校の6年の子供たちに話をしてくださるといのがありますけれども、どういうことでこの講座が成り立ったか伺っていいですか。

○今井公民館長 この交流学習だけではなく、1年生のときから、先ほども少し出ました、わだ幼稚園さんのほうに訪問して子供たちと触れ合うということで、それぞれ年齢的にはお孫さんなのか、その下のひ孫になるのかというところなのですけれども、そういったところの子供たちと一緒に自分たちの昭和の初期の世界だと思いますけれども、当初は戦争を体験した方、または終戦後の体験ということでのお話をするというのが趣旨だったのですね。

ところが最近、戦争体験という世代ではなくなってきたところがありますので、終戦後の昭和がこうであったという、小さいころの遊びであったりとか、学級生の皆さんは真面目で、このための準備で小道具なんかも用意したりということで、学校の担当の先生からは非常に好評を得ているところがあります。長寿大学の主な活動が湖北地区公民館ということがございますので、それで近隣の小学校に声かけしたところ、ぜひということが続いているところでございます。ただ、多少広げたいということで湖北台西小学校に行ったりとか、新木小学校に行ったりとか、そういったことは少しだけ、1校だけではなくという、こういう対象校を広めてやっているところでございます。

以上です。

○倉部教育長 よろしいですか。

ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 3ページの指導課のところなのですけれども、3番目です。「第3回我孫子市教育支援委員会」ということなのですけれども、支援対象の43名云々というふうに内容のところにありますけれども、これは今現在、支援対象になっている児童がいる、いないということではなくて、その児童に対する支援者のほうというか、教員のほうというかな、そういうほうで支援者の人数のこととか何とかという、今現在、解決しなければいけない問題とかというのは何かありますか。

○倉部教育長 指導課長、教育支援会議の中身そのものをまず説明されたほうがいいと思いますが、そちらからお願いします。

○榊原指導課長 この教育支援委員会は第3回ということで、趣旨は来年度小学校、中学校に入学するお子さんの適切な就学先を決定するという委員会でございます。最終的にはこちらで答申を上げていただいたのを定例教育委員会の中で、教育委員の皆様方に最終御判断をしていただくというような意義の会でございます。

○豊島委員 ありがとうございます。内容はわかりました。

これは43名というのは、どこに何人いるかという確認作業ですか。割り振るといふ、そういう問題なのですか。

○榊原指導課長 まず新小学校1年生については、発達センターに通われているお子さんが対象になります。そのお子さんの就学先ですが、通常学級なのか、特別支援学級なのか、もしくは特別支援学校なのかというような形で、どの進学先が適切なのかを判断いたします。新中1生につきましては現在、特別支援学級に通っている児童が主な対象となります。

○倉部教育長 よろしいですか。

○豊島委員 わかりました。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 それでは事務進行予定について、ほかに質問がないようですので、これを打ち切ります。

次に、教育事業全般について質疑があればこれを許します。いかがでしょうか。

○豊島委員 「繫」という我孫子市小中一貫教育だよりなのですけれども、たくさんの枚数をいただきました。これはつくるのも大変だし、これだけ小中一

貫に関しての会合を持たれているということが、すごくたくましく感じております。ありがとうございます。

その上でなんですけれども、先ほど学力を向上させるという記述式の問題ということがあったのですけれども、この「繋」の中でふるさとのカリキュラムを学ぶ上で、児童生徒たちがそれぞれ実際に出かけて行って見聞きしてそれをまとめて報告するという、そういうふうなことというのが結果的には記述式の学力を上げていく、そういう基礎になるのだと思うのですね。授業中でというのは、やらなければいけないけれども、授業を展開する上で結構大変なのですよ。ですからそのところをふるさとカリキュラムとかという、こういうものを使いながら、そういう学力を上げていく、呼んだり書いたりするベースみたいな力をつけていくのはかなりいいのかな、有効かなというふうに思うのですけれども、実際にそれをごらんになってどのように思われますか。

○榊原指導課長 今、委員がおっしゃっていただいたとおりかと思います。この地域の学習を通した中で、地域を知ることは当然ですけれども、その上でコミュニケーション力や表現力を身につけさせるということが目標になっておりますので、今御指摘いただいた点も踏まえて、また取り組んでいきたいと思っております。

○豊島委員 ありがとうございます。前に秋田のほうを見学させていただいたときも、特別なことをやっているか、やっていないかは別として、特別なことはやっていないと堂々と言ったわけですから、やっていないのだと思うのですよ。ただ特別ではないところを丁寧にきちんとやっているのだと思うのですよ。それは何かといたら、読んだり、書いたりするそのことを丁寧にやっていく、手を抜くということはないけれども、それを本当に一つ一つ丁寧にやっていく。ふだんの授業でそれを全部やるというのはなかなかいかないから、今回の小中一貫教育のこういうふるさとのカリキュラムだとか、まだいろいろ

あると思いますけれども、そういうのを使いながら、ふだんではできないところをしっかりとそういうのでやっていくということも1つ有効なのかなというふうに、そこに小中学生が合わさっていけば、もっといいというふうには思っているのですけれども。そういうことで、これはこれからも見守らせていただきたいと思います。我々も頑張っていきたいと思います。

○倉部教育長 ありがとうございます。

まさしく豊島委員がおっしゃられていることは、今我孫子市が進めている小中一貫教育の中で目指す方向性だと思いますので、それを含めて教育委員会として頑張っていきたいなと思っていますので、よろしくをお願いします。

ほかに。

○北嶋委員 今回「繫」が94号まで行って、もうすぐ100号かなと。今回読ませていただいた感想になりますけれども、85号では参観した保護者の方の声、この間布佐南小で小中一貫の委員会があったときに、地域の方は小中一貫って何だろう、どこが小中一貫なのだろう。あのときは小学校の授業でしたけれども、わからないということで校長から説明していただきましたけれども、見ていただくのが一番。カリキュラムでつなぐというのをこちらはわかっていますけれども、1つの授業を見てもわからないですよ。そこら辺は丁寧に、きょうの授業はこういうことで、カリキュラムはここに位置づけられていて、これが中学でこういうふうに進展しますみたいなことを少し丁寧に保護者の方たちに御説明していただくといいなと。ここを見た限りでは、事前に小学校の保護者の方が中学校を見て安心しましたと書いてありますよね。これは親の本心だと思いますので、そういうことを広げていくことによって小中一貫も少しなだらかに進むのかなと。

それから89号とか92号は小学の先生、中学校の先生がお互いに見合うことによって、中学校の先生からすると、小学校の先生はこんなに丁寧な言葉を

使っているのか、こういうふう子供に接しているのか、言葉はこうなのかと見て初めておわかりになるし、今度は小学校の先生が中学校に行って、自分が教えたことがこういうふう発展していくのだというのを目の当たりに見ていただく、やはり見ていただくことは大事。

それから Abi-English に関してもやってくださっていて、特に外国語活動は今教科になっていませんので、多分学校によって、いろいろやり方があると思いますよね。その辺を見ることによって、こういうやり方もあるのか、いろいろなやり方がわかってくださると、皆さん御自分の指導方法に生かせると書いてくださっているので、今回そういう人の交流がいっぱい見えたので、それはとてもよかったと思っています。少し時間がかかって大変なことですが、少し丁寧に、まずは当事者の方の先生方の御理解、それから保護者の方の御理解、そして地域の方の御理解ということで、子供を取り巻く大人がみんなわかっていないと、子供たちはわからないのですよね。小学校6年生が中学校3年へ行くのだから、それを大人がこういう形で指導していこうということをスタートしたのですから、時間がなくて大変だけれども、そこをうまく工夫をして皆さんのプラスになるように御指導いただくといいかなと思います。お願いします。

○倉部教育長 榊原課長、ぜひ一言。

○榊原指導課長 具体的な御指導ありがとうございます。我々が課題として理解している点を今申し述べていただきましたので、具体的には来年度の布佐中区での10月の公開発表会に向けて準備を布佐中区の先生方と一緒に進めておりますので、今御指摘いただいた点も踏まえて、今後、来年度も着実に進んでいこうと思います。ご指導よろしくをお願いします。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

教育全般について、よろしいですか。

○豊島委員 先ほど長谷川委員がおっしゃっていた柏市のみんなの子育て広場のことで、鎌ヶ谷市での会議のときの発表のことをおっしゃっていましたがけれども、私もあれを伺いながら、こちら側のPTAの活動とダブるところがあるから、そのところがバッティングしてしまうとまずいなと思います。相乗効果を上げられればいいなとも思っていたのですがけれども、今の北嶋委員がおっしゃった父兄に理解してもらおうということもそうなのですからけれども、父兄の人の参加というのがどのくらい呼び込めるかということで、小中一貫教育の成否が少し動くのかなという気がどうしてもしているのですよね。それは理解してもらおうということですね。父兄にはわからないというところがあって、先生方が先行していくのはいいのですが、それを成功させるためには、やはり地域の人々が、そうだよなというふうな形で納得してもらおうための活動というか、それが成否を占うのではないかなと思っているのです。東京都が発表した小中高一貫教育を八王子かなんか向こうのほうにやるということですが、そういう流れになっていくようなこととも関連して、父兄の理解とか何かが必要だなと思って、そういうことを合わせ考えることも、あるいは時に出てくるかもしれないと思うのですけれども、小中一貫の学校での動きの中で、父兄の動きというのは何か感じるころはございますか。私らがやらなければいけないぞというふうに思うところがあれば、動けるところは動きたいと思えますけれども。

○湯下教育総務部長 御指摘ありがとうございます。

当初、小中一貫を推進していく上で一番重要なのは、それを担う教員の理解が必要だろうということで進めてまいりました。それが少しずつ実ってきて、次の段階に差しかかってきたかなというようなことを感じています。

先日の保護者とのやりとり、意見交換の部分もまさにそういったことで、次は保護者の理解を得ながら、また地域の理解を得ながら、さらに向上させてい

かなければいけない段階だろうと、そういうことを肝に銘じてまた進めてまいりたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

○倉部教育長 ほかに教育全般についていかがでしょうか。

○北嶋委員 報告事項ではないのですが、全般ということで。昨今、テレビはいじめのことでにぎわっていて、我々の耳にも心に痛い言葉がいっぱい入ってきます。これはもうどうしようもないことで、先ほど伺って、スマホを持つ子供たちはほぼ普通になってきていて、その中でいじめというのは誰にも見られない。LINE を組んでしまったら、ほかの人は入れないので見えない。そうすると我々大人はどうすればいいのかということで、出てくるまで見えない、出てきて1つずつ潰していかなければならない現実に多分学校はあるのだと思います。それもしながら、でもやはりいじめはいけないし、今各学校でいじめの防止の指針も持っているしということで、当事者は子供たちなので、彼ら彼女たちが自分たちが主体的に、これはやめようよという子が1人でもふえることを私は望むのですけれども、その方法はどこの学校もないわけで、そこを模索しながらやらなければいけない。

何年か前に、県で「いじめゼロ子どもサミット」をつくって張ってありますけれども、あれは過去のものになってしまって、今自分たちがどうしたらいじめをなくせるか、苦しんでいる子がいるかもしれない。大抵ニュースになると、先生たちはいじめはなかったと思いますと。見えないのですよね。だけど、今もしかしたらあるかもしれないということを念頭に置いて、見ようとしなくても見えないし、いじめであると認識しなくてもいじめかもしれないしということで悩ましいのですが、できれば子供たちがみずから主体的に行動して、自分たちでいじめをなくすという方向に動いてくれると第三者的にうれしいなと思うのですが、そういうことというのは実際なかなか現実としては難しいことではと思うが、学校の子供たちが自分たちで、たまたま秋田で私たちは見てきた

からそういうことを言っているのですが、秋田では中学生サミットというのをやっていて、その中で今回もそういうのをしてきて、また秋田市は我孫子市とはレベルが違うので、毎年、毎年こういういじめのパンフレットをつくっていて、地域の方、保護者みんなに配っていて、この中に子供たちの主張も入っているのですけれども、これをしなさいということではないのですが、少しでも子供たちが主体的に自分たちの生活環境をよくするような活動ができないものかなとこれを見てきて思いましたので、指導課長には苦しいと思いますが、そういう学校現場で子供たちが主体的に動くような活動というのは難しいのでしょうか。

○大島少年センター長 本当に今言われたことは大切なことで、幾ら我々大人がやっても、子供たち自身が、どうやって自分たちの中でいじめをなくしていくかというところを真剣に考えていくような、そういった形をつくっていく、それをフォローしていくのが教員の役割でもあると思います。

今具体的に学校を上げて大きく取り組んでいるという事例は余り入ってきてはいないのですが、ただ中学校であれば生徒会役員が中心となって、いじめ防止月間等の期間に話し合いを持ったり、あるいは生徒総会の中でそういった議題を上げていくというようなことは少しずつできているかなと。

小学校のほうでは、まだ発達段階からなかなか難しいところはあるとは思いますが、高学年が中心となって、そういう取り組みが今後進んでいくように支援をしていきたいなというふうには思っています。

○北嶋委員 あのとときも結局、後から20人の子供たちは見ていたよと出てきた。そういうことで大きなことになる前に、なかなか実際は難しいのでしょうけれども、気がついた子供たちが、傍観者とか観衆にならないで、何かいじめがあるらしいという情報を、ネットパトロールでもいいので出してくださいと我々はすごくいいですよ。ただ子供たちは出せないし、私は子供ではないか

らその子供たちの気持ちがわかりませんが、実はあったのだよということではなくて、今いじめられているみたいだよとか、たまたま自分も LINE に入ってしまったということが、どこからか発信してもらえないかなど、当事者ではないからわからないのですが、そういうのはないのでしょうか。難しいですか。

○倉部教育長 北嶋委員、この課題については正直答えがないのですよね。私たち5人が秋田市に行ったときにも、もともとそういうような、いわゆる場があったわけではなしに、たまたま違う形で生徒会が動いているものの中で、ある年にそういう課題をみずから選択して、それに変わって行って全校的な動きになった。非常に秋田市としてはタイミングがよかったという形で、そういう組織ができたと思いますので、それが取り入れられれば確かに1つの解決方法になると思うのですけれども、すぐということとはなかなか難しい。

それから学校現場の中だけでそれを解決しようとする、やはりとても難しいというのは共通理解であると思いますし、今まで私どもの教育委員会が目指してきたのは、まずPTAと同じ共通理解に立って、そういうような情報モラルについて一緒になって考えていきたいと思いますというところに我孫子市教育委員会は今あると思うのですね。

教育委員会がこれはだめです、だめですというものをつくってやるのは簡単ですけれども、それを理解して全ての学校ができるかということ、そうではないということから今スタートしていますので、それぞれの学校のPTAがどういうふうに動けるか、それから子供たちに対して、どういうふうにそういうものを直接子供と親が話し合う、それから学校を巻き込んでどういうふうに話をするかという下地づくりを、これからつくっていかなければいけない段階だと思いますので、それについては教育委員の我々5人と学校現場と、それからまたPTAの人たちともう一度話をする場を設けて、そこからスタートするのが

まずは1つかなというふうに思っていますので、ぜひまた5人とPTAの役員さん、あるいはいわゆる中学校区ごとのというような次の段階に行ってもいいかなと思いますので、その辺は委員会として場を設けたいなと思っていますので、そこから一緒に考えていったらいかがでしょうか。

○豊島委員 賛成です。そうしなければいけないと私も思います。私は3年弱やらせてもらって、少し麻痺してしまっているなというふうに思うことは、やはり先生方の忙しさというのは全然消えていなくて、児童生徒と先生とのロングホームルームは今あるのかな。そういった本当に信頼関係みたいな、そういう中でまずは地盤をつくっていくしかない。それはどんなデータをとろうと、どんなアンケートをとったって、児童生徒と先生との信頼関係の中でどうだというふうなことを話し合ったりなんかをしながら地盤をつくっていく。そういうものがないと、児童会であろうと、生徒会であろうと、委員にもなかなかなりにくいような状況の中で、その中で何か生まれていく、できていくというのは、できたらいいのだけれども、難しいと思う。先生の毎日の時間帯の動き、部活動も大変だし、そういうものというのは、ここに先生方がいらっしゃるわけで、本当にどういうものになっているかとよくわかると思うのですよね。そのところを先生に余裕を持って接してもらおうような時間帯、そういうことにしていかないと、なかなかね。そのつくり方みたいなのをぜひ話し合いをさせてもらいたいし、親だって本当に忙しくてぎりぎりのところで、子供の面倒をよく見ろと言ったって見られるはずがない。我々の役割の1つは、そのところを見ていくことかなと思っています。そういうことを認識しながら、先ほど教育長が提案された会、そういう話し合いの場は私も必要だと思っています。少し余計なことをしゃべりましたけれども。

○倉部教育長 ありがとうございます。

いじめ問題についてせっかく問題提起をしていただきましたので、ほかに御

意見があれば今後の委員会運営に参考にさせていただきたいと思っておりますけれども、いかがですか。

大体今までの方向で変わっていないのかなと思っておりますので、まだ端緒にしかなっていないものを今後進めさせていただいて、一緒になって考えていくというふうな方向づけで頑張っていきたいと思っておりますので、ぜひとも御協力をお願いしたいと思います。

この件についてはよろしいでしょうか。

またその都度、続けていくテーマかと思っております。秋田市の中でも、いじめはゼロにならない、ゼロにするというふうな考えではなしに、ゼロにならないからこそ、どういうふうなそれを少なくしていき、解決していくかという方策が逆に生まれるというような考え方に私どもも共感したところですので、我孫子市もそういうような形で進んでまいりたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いたします。

ほかに教育全般についてよろしいでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 なければ、以上で諸報告に対する質疑を打ち切ります。

ほかにございませんけれども、私のほうからPRではないのですが、先ほど平和事業に対して生涯学習のほうで、長寿大学のほうが子供たちについての語りかけという、とてもいい事業をしていただいていると思っておりますが、御存じのとおり我孫子市では、教育委員会が主催ではないのですが、平和事業として、中学生を広島、長崎に派遣しております。

ことしの6月から派遣されたその子供たちが今度は教師役となって、小学校の現場でそれぞれの思いを伝えるという、いわゆる先ほどの生涯学習のだんだん戦争を知らない世代になってきた間をつなぐという事業が始まっております。いろいろな学校で、小学校13校全てにそういうリレー講座を設けようという

動きもありますので、ぜひ教育委員の皆さんも時間がとれば、そういうようなところを見ていただきたいなと思っています。私も極力そういうものについて参加して見っていますが、6月に比べて、子供たちとといいますか、その講師役の人たちは格段にうまくなっています。自分の思いを自分の言葉で伝えるということがすごくうまくなっていて、子供たちに伝わりやすい。これは広島とか長崎に派遣している1つの成果だと思っていますので、ぜひとも、どこか1つでもいいですから、見ていただけるとありがたいなと思います。

それから、ことし広島に派遣された中学生の発表会が12月6日にございますので、それもぜひ見ていただければと思います。市の事業ですけれども、私のほうからPRをさせていただきますので、よろしくお願いします。

○倉部教育長 以上で平成27年第11回定例教育委員会を終了いたします。
長い間、お疲れさまでした。

午後3時30分閉会